

|         |       |
|---------|-------|
| プログラム番号 | 06026 |
|---------|-------|

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

|                |   |                                  |                           |
|----------------|---|----------------------------------|---------------------------|
| ①大学名<br>研究科名   | 国立大学法人 横浜国立大学 大学院工学府  |                                  |                           |
| ②学長名           | 飯田 嘉宏   |                                  |                           |
| ③所在地           | 〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1   |                                  |                           |
| ④担当者<br>連絡先    | 所属部局・職名   | 工学研究院・教授                         |                           |
|                | 担当者氏名   | 柴山 知也                            | e-mailアドレス tomo@ynu.ac.jp |
|                | 電話・FAX番号  | 電話：045-339-4036 Fax：045-348-4565 |                           |
| ⑤ホームページ URL    | <a href="http://www.ynu.ac.jp/index_top.html">http://www.ynu.ac.jp/index_top.html</a> |                                  |                           |
| ⑥大学院在学<br>留学生数 | 438人(うち国費留学生 107人)  |                                  |                           |

【2. プログラムの概略】

|                   |   |
|-------------------|---|
| ①プログラムの名称         | 英語による国際基盤工学特別プログラム  |
| ②プログラムの形態         | 修士課程(2年間)+博士課程(3年間)   |
| ③実施研究科・専攻         | 大学院工学府・社会空間システム学/システム統合工学 専攻                                    |
|                   | (所在地) 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5                                       |
| ④連携大学・研究科・<br>専攻名 | 横浜国立大学・大学院環境情報学府・環境システム学専攻                                      |
| ⑤受入れ学生数           | 13人(修士4人、博士9人)<br>(うち研究留学生優先配置人数：10人(修士3人、博士7人))<br>(日本人学生数：0人) |
| ⑥担当教員数            | 28人(専任：26人、兼任：0人、非常勤：2人)  |
| ⑦研究科長(代表者)名       | 所属部局・職名 大学院工学研究院・研究院長   |
|                   | 研究科長名 國分 泰雄   |

### 【3. プログラムの内容】

#### 【概要】

途上国の開発を担う人材を育成するために、優秀な素質の研究留学生を、主として開発途上国より受け入れて、土木工学及び船舶海洋工学とその発展分野を主な分野として、英語による教育および研究指導を行い、第一線の研究、並びに修士または博士の学位取得の機会を与える。さらに計画建設学における我が国の水準の高さを基盤として、学術の相互交流にも資することを目指す。工学府においては博士課程前期および後期の教育を行い、環境情報学府においては博士課程後期の教育を行う。

講義、演習には英語を使用言語とするが、博士課程前期、後期に在学する日本人学生との混合教育を実施することにより、日本人学生に対しても、国際的な雰囲気の中での教育の機会を与え、将来国際的に通用する日本人技術者を育成していくための方法の一つと位置づける。

#### 【特色】

途上国の学生を主な対象として教育、研究指導を行い、卒業生の大多数が母国にて教職、研究職等を勤め、これら卒業生による高等教育機関での教育を通じて、結果として途上国で働く多くの技術者を育成すること、また、卒業生を中心として国際的な共同研究を進めることを特色とする。また、志願者を一般競争により、公募し、極めて良質の学生を招聘する。

#### 【教育指導体制】

土木工学及び船舶海洋工学を主な分野とする従来の計画建設学及びこれらを発展させた国際基盤工学の諸分野について、留学生の研究目的に応じて、指導教員集団を組織し、博士課程前期(修士課程)または博士課程後期(博士課程)において、英語による徹底した教育、研究指導を行う。また、課程修了に必要な単位を取得するため、国際基盤工学に関する関連科目を英語で修得させる。担当する教員は助手までを含めると30名ほどにもおよび、全員が英語による教育、指導あるいはその補助が可能な体制となっている。

#### 【使用言語】

教育はすべて英語で行う。英語での講義は建設マネジメント等の科目が30科目以上開設され(ゼミなどを除く)、英語の講義のみで修了に必要な単位を十分そろえることができる。博士課程前期においては、30単位以上の授業科目単位修得と修士論文審査に合格することが修士学位取得の要件である。博士課程後期においては、9単位以上の授業、演習、個別指導等の単位修得と博士論文審査に合格することが博士学位取得の要件である。これらの指導もすべて英語で行う。また、修士論文、博士論文ともに英語による執筆、審査を行う。

#### 【募集方法、募集対象国、学内選考方法】

募集については、主としてアジア、アフリカ、中南米、東ヨーロッパなどを対象とした一般公募とする。また、主要な海外の大学へ案内資料を送付するとともに、教員が直接説明に出かけ、プログラムの周知、広報を行う。既設の特別コースにおいては、過去20年間に、バンドン工科大学(インドネシア)、チュラロンコン大学(タイ)、タマサート大学(タイ)、ホチミン市工科大学(ベトナム)、バングラデシュ工科大学(バングラデシュ)、ダルエスサラーム大学(タンザニア)、ブータン王立工科大学(ブータン)、モンゴル工科大学(モンゴル)、イアシ工科大学(ルーマニア)、モラトワ大学(スリランカ)、KNT工科大学(イラン)、アジスアベバ大学(エチオピア)、サンパウロ大学(ブラジル)等20を越える大学へ説明に出向き、多くのトップクラスの学生の受け入れに成功した。

募集方法、選考方法は、ホームページ上で公開し、応募書類等の必要書類はダウンロードできる。応募者の出身大学、学業成績、研究計画等の書類選考で候補者を絞り込み、可能ならば直接面談、あるいはインターネットで質疑応答を行い、最終候補者を教員会議の議決を経て決定する。

【本プログラムの有効性】

既設の特別コースは、平成元年に開設され、横浜国立大学における英語を使用言語とした留学生学位取得プログラムの嚆矢として、大学全体の教育国際化展開の切り込み役を果たした。既設の特別コースで蓄積された知見をもとに、全学取り組みによるインフラストラクチャー管理修士プログラム（世界銀行奨学金プログラム）が平成5年度から開始され、その後も社会科学系でいくつかの新しいプログラムが開設されている。

さらに、既設の特別コースで中心的な役割を果たしてきた教員が平成18年4月から20年3月まで横浜国立大学留学生センター長に選任され、全国の留学生センターを通じての情報の発信に努めており、既設コースの蓄積した知見は本学の内部および他大学に対して、留学生プログラム運営のための多くの情報を提供してきた。今後の途上国の開発に、積極的に貢献していこうとする新たな大学の可能性を、全国の特に中規模地方大学に発信し続けていく上でも、本プログラムの役割は非常に大きい。

平成17年度から19年度まで日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業に採択され、既設コースの修了生を中心とした、学術基盤の形成を目指している。それに伴い、アジア・アフリカ地域における大学院教育の中心のひとつとして本プログラムを位置づけ、運営していくことが可能となっている。この他にも科学研究費補助金基盤研究（海外学術調査）など多様な枠組みを駆使して、広く学術交流を通じての、日本を中心とする途上国学術基盤ネットワークが形成されつつあり、教育、研究を包含する国際活動が展開されている。

これまで、途上国の将来をリードする人材（大学教員、研究機関研究員）育成を図ってきたが、担当部局（研究科）および担当教員を拡大することで、さらに広く、深い教育、研究指導の実施が期待できる。

既設コース留学生の出身国の分布は下記の表のようになっている。今後もアジアとアフリカ諸国を中心にその分布を拡大していき、本プログラムを開発途上国全体のアカデミックセンターとして成長させていくことを目指している。

特別コース 国費留学生分布表

|         | 平1 | 平2 | 平3 | 平4 | 平5 | 平6 | 平7 | 平8 | 平9 | 平10 | 平11 | 平12 | 平13 | 平14 | 平15 | 平16 | 平17 | 平18 | 計  |
|---------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| タイ      | 1  | 2  | 1  |    |    |    |    | 1  |    |     | 1   | 1   |     | 1   |     | 1   |     |     | 9  |
| インドネシア  |    |    |    |    | 1  | 1  |    |    | 1  | 1   |     |     |     | 1   |     |     |     |     | 5  |
| フィリピン   |    | 2  |    |    |    |    |    | 1  |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 3  |
| 韓国      |    | 1  |    | 1  |    |    |    |    | 1  |     | 1   |     |     |     |     |     |     |     | 4  |
| ベトナム    | 1  |    | 1  | 2  |    |    | 1  |    |    | 1   | 1   |     |     | 1   | 1   | 1   | 1   |     | 11 |
| ブータン    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     | 2   | 2  |
| パキスタン   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     | 1   | 1  |
| インドネシア  |    |    | 1  |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 1  |
| ネパール    |    |    | 1  |    |    | 1  |    |    | 1  |     |     |     |     |     |     |     |     | 1   | 4  |
| バングラデシュ | 1  |    | 1  | 1  |    |    | 1  | 1  |    |     | 1   | 2   | 2   | 1   | 1   | 2   | 1   |     | 15 |
| スリランカ   |    |    |    | 1  |    | 1  |    |    | 1  |     | 1   |     | 1   | 1   |     | 1   |     |     | 7  |
| イラン     |    |    |    |    | 1  | 1  |    | 1  |    | 1   |     |     |     |     |     |     | 1   |     | 5  |
| トルコ     |    | 1  |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 1  |
| シリア     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     | 1   |     |     | 1  |
| エジプト    |    | 1  |    | 2  |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 3  |
| タンザニア   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     | 1   |     | 1   |     | 2  |
| ブラジル    | 1  |    |    |    |    |    | 1  |    | 1  |     |     |     | 1   |     | 1   | 1   | 1   |     | 7  |
| ボリビア    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     | 1   | 1  |
| コロンビア   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     | 1   |     |     |     |     | 1  |
| 英国      |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     | 1   |     |     | 1  |
| チェコ     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     | 1   |     |     |     |     |     |     | 1  |
| ルーマニア   |    |    |    |    | 1  |    | 1  | 1  |    |     |     | 1   |     |     | 1   |     |     |     | 5  |
| ブルガリア   |    |    |    |    |    |    | 1  |    | 1  |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 2  |
| クロアチア   |    |    |    |    | 1  |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 1  |
| 計       | 4  | 7  | 5  | 7  | 4  | 4  | 5  | 5  | 6  | 3   | 5   | 5   | 4   | 6   | 5   | 8   | 5   | 5   | 93 |